

産業廃棄物処理計画書

2024年6月10日

新潟市長様

提出者

住所

新潟県新潟市富塚1942番地

氏名

新潟田建設株式会社
代表取締役社長 渡辺明紀

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号

0254-27-5711

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称

新潟田建設株式会社

事業場の所在地

新潟市管轄区域内

計画期間

令和6年4月1日から

令和7年3月31日まで

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類

総合工事業

②事業の規模

元請完成工事高 71億8千万円

③従業員数

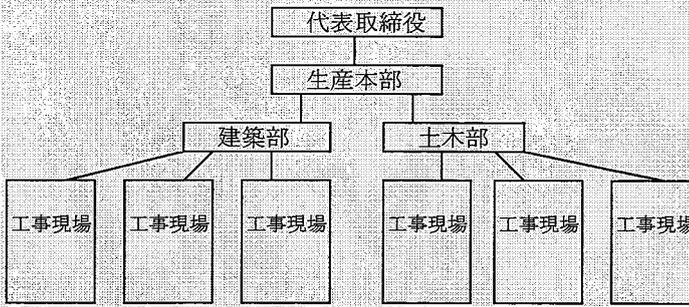
105名

④産業廃棄物の一連の処理の工程

- ・ 汚泥→脱水、再資源化or埋立処理
 - ・ 廃プラスチック類→破碎、再資源化
 - ・ 紙くず→選別、再生or焼却
 - ・ 木くず→木材チップ、再資源化
 - ・ 金属くず→選別、再資源化
 - ・ ガラスくず→破碎、再資源化
 - ・ 石膏ボード→再資源化
 - ・ コンクリート破片→破碎、再資源化
 - ・ アスファルト類→再資源化
 - ・ 管理型混合廃棄物→選別、再資源化
- (上記はいずれも委託業者による処理となります)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



統括責任者	生産本部 本部長
建築部責任者	建築部部长(産廃処理指導管理)
土木部責任者	土木部部长(産廃処理指導管理)
工事現場責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄物処理計画策作成 ・ 廃棄物管理状況の把握と改善の検討 ・ 処理業者、再生利用業者の選定管理 ・ 委託契約の締結 ・ 産業廃棄物管理票の交付・管理 ・ 監督官庁への各種報告 ・ 社員・協力会社に対する教育・啓発 ・ 所属長への廃棄物管理状況等の報告 ・ その他関係する事項

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

【前年度（5年度）実績】									
① 現状	産業廃棄物の種類	アスコンがら	コンクリートがら	木くず	廃プラスチック類	繊維くず	ガラス・陶磁器くず	廃石膏ボード	混合(管理型)
	排出量	1439.630 t	719.900 t	42.870 t	20.145 t	0.000 t	19.650 t	25.140 t	77.392 t
② 計画	産業廃棄物の種類	廃電機機械器具	石綿含有産業廃棄物	金属くず	紙くず	がれき類	混合(安定型)	蛍光灯	建設汚泥他
	排出量	0.000 t	12.780 t	76.727 t	3.030 t	18.352 t	2.756 t	0.580 t	19.681 t

(これまでに実施した取組)

各建設現場において、協力業者の余剰材の引き取り徹底を図った。

【目標】									
① 現状	産業廃棄物の種類	アスコンがら	コンクリートがら	木くず	廃プラスチック類	繊維くず	ガラス・陶磁器くず	廃石膏ボード	混合(管理型)
	排出量	1,500.00 t	224.00 t	10.00 t	20.00 t	1.00 t	15.00 t	10.00 t	90.00 t
② 計画	産業廃棄物の種類	廃電機機械器具	石綿含有産業廃棄物	金属くず	紙くず	がれき類	混合(安定型)	蛍光灯	建設汚泥他
	排出量	1.00 t	1.00 t	80.00 t	30.00 t	9.00 t	8.00 t	1.00 t	0.00 t

(今後実施する予定の計画)

各建設現場において、協力業者の余剰材の引き取りの更なる徹底を図る。

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)	
	各現場内における、分別作業を徹底し、他の廃棄物の混入が無いよう徹底する。	
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)	
	上記の取り組みを更に徹底し、推進する。	

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状		【前年度（5年度）実績】							
産業廃棄物の種類	アスコンがら	コンクリートがら	木くず	廃プラスチック類	繊維くず	ガラス・陶磁器くず	廃石膏ボード	混合(管理型)	
自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t	t
産業廃棄物の種類	廃電機機械器具	石綿含有産業廃棄物	金属くず	紙くず	がれき類	混合(安定型)	蛍光灯	建設汚泥他	
自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t	t
(これまでに実施した取組)									
② 計画		【目標】							
産業廃棄物の種類	アスコンがら	コンクリートがら	木くず	廃プラスチック類	繊維くず	ガラス・陶磁器くず	廃石膏ボード	混合(管理型)	
自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t	t
産業廃棄物の種類	廃電機機械器具	石綿含有産業廃棄物	金属くず	紙くず	がれき類	混合(安定型)	蛍光灯	建設汚泥他	
自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t	t
(今後実施する予定の計画)									

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状		【前年度（5年度）実績】							
産業廃棄物の種類	アスコンがら	コンクリートがら	木くず	廃プラスチック類	繊維くず	ガラス・陶磁器くず	廃石膏ボード	混合(管理型)	
自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t	t
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t	t
産業廃棄物の種類	廃電機機械器具	石綿含有産業廃棄物	金属くず	紙くず	がれき類	混合(安定型)	蛍光灯	建設汚泥他	
自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t	t
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t	t
(これまでに実施した取組)									
② 計画		【目標】							
産業廃棄物の種類	アスコンがら	コンクリートがら	木くず	廃プラスチック類	繊維くず	ガラス・陶磁器くず	廃石膏ボード	混合(管理型)	
自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t	t
自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t	t
産業廃棄物の種類	廃電機機械器具	石綿含有産業廃棄物	金属くず	紙くず	がれき類	混合(安定型)	蛍光灯	建設汚泥他	
自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t	t
自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t	t
(今後実施する予定の計画)									

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状		【前年度（5年度）実績】							
産業廃棄物の種類	アスコンがら	コンクリートがら	木くず	廃プラスチック類	繊維くず	ガラス・陶磁器くず	廃石膏ボード	混合(管理型)	
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t	
産業廃棄物の種類	廃電機機械器具	石綿含有産業廃棄物	金属くず	紙くず	がれき類	混合(安定型)	蛍光灯	建設汚泥他	
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t	
(これまでに実施した取組)									
② 計画		【目標】							
産業廃棄物の種類	アスコンがら	コンクリートがら	木くず	廃プラスチック類	繊維くず	ガラス・陶磁器くず	廃石膏ボード	混合(管理型)	
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t	
産業廃棄物の種類	廃電機機械器具	石綿含有産業廃棄物	金属くず	紙くず	がれき類	混合(安定型)	蛍光灯	建設汚泥他	
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t	
(今後実施する予定の計画)									

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状		【前年度（5年度）実績】							
産業廃棄物の種類	アスコンがら	コンクリートがら	木くず	廃プラスチック類	繊維くず	ガラス・陶磁器くず	廃石膏ボード	混合(管理型)	
全処理委託量	1,439.630 t	719.900 t	42.870 t	20.145 t	0.000 t	19.650 t	25.140 t	77.392 t	
優良認定処理業者への処理委託量	0.000 t	34.400 t	42.770 t	19.515 t	0.000 t	19.650 t	24.300 t	50.958 t	
再生利用業者への処理委託量	1,439.630 t	685.500 t	0.100 t	0.630 t	0.000 t	0.000 t	0.840 t	26.434 t	
認定熱回収業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	t	
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	t	
産業廃棄物の種類	廃電機機械器具	石綿含有産業廃棄物	金属くず	紙くず	がれき類	混合(安定型)	蛍光灯	建設汚泥他	
全処理委託量	0.000 t	12.780 t	76.727 t	3.030 t	18.352 t	2.756 t	0.580 t	19.681 t	
優良認定処理業者への処理委託量	0.000 t	3.480 t	76.727 t	0.480 t	18.352 t	2.756 t	0.000 t	0.000 t	
再生利用業者への処理委託量	0.000 t	9.300 t	0.000 t	2.550 t	0.000 t	0.000 t	0.580 t	19.681 t	
認定熱回収業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	t	
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	t	
(これまでに実施した取組)									
委託基準に従って、産業廃棄物を委託できる業者を選定し、書面による契約を実施。									

① 計 画	【目標】								
	産業廃棄物の種類	アスコンが ら	コンクリ ートがら	木くず	廃プラス チック類	繊維くず	ガラス・陶 磁器くず	廃石膏ボー ド	混合(管理 型)
	全処理委託量	1,500.000 t	224.000 t	10.000 t	20.000 t	1.000 t	15.000 t	10.000 t	90.000 t
	優良認定処理業者 への処理委託量	637.000 t	200.000 t	10.000 t	20.000 t	1.000 t	10.000 t	10.000 t	20.000 t
	再生利用業者 への処理委託量	863.000 t	24.000 t	0.000 t	0.000 t	0.000 t	5.000 t	0.000 t	70.000 t
	認定熱回収業者 への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者 以外の熱回収を行う 業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	t
	産業廃棄物の種類	廃電機機械 器具	石綿含有産 業廃棄物	金属くず	紙くず	がれき類	混合(安定 型)	蛍光灯	建設汚泥他
	全処理委託量	1.000 t	1.000 t	80.000 t	30.000 t	9.000 t	8.000 t	1.000 t	19.000 t
	優良認定処理業者 への処理委託量	0.000 t	1.000 t	60.000 t	20.000 t	5.000 t	5.000 t	1.000 t	0.000 t
	再生利用業者 への処理委託量	1.000 t	0.000 t	20.000 t	10.000 t	4.000 t	3.000 t	0.000 t	19.000 t
	認定熱回収業者 への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者 以外の熱回収を行う 業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	t
(今後実施する予定の取組)									
※事務処理欄									

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物処理計画書（集計用シート）

提出者の名称	新発田建設株式会社代表取締役社長 渡辺明紀	提出者の住所	新潟県新発田市富塚1942番地
事業場の名称	新発田建設株式会社	事業場の所在地	新潟市管轄区域内
内容年度	令和 6 年度		

(単位:トン)

廃棄物の種類	現状 / 計画	排出量 A	自社内での処理状況				委託先での処理状況				
			自己再生 利用量 B	うち熱 回収量 C	自己中間 処理 減量化量 D	自己最終 処分量 E	全処理 委託量 F	委託処理量のうち委託先毎の量			
								優良認定 処理業者 への処理 委託量 G	再生利用 業者への 処理 委託量 H	熱回収 認定業者 への処理 委託量 I	熱回収 認定業者 以外の熱 回収を行 う業者へ J
アスコンがら	現状	1,439.630					1,439.630	0.000	1,439.630		
	計画	1,500.000					1,500.000	637.000	863.000		
コンクリートがら	現状	719.900					719.900	34.400	685.500		
	計画	224.000					224.000	200.000	24.000		
木くず	現状	42.870					42.870	42.770	0.100		
	計画	10.000					10.000	10.000	0.000		
廃プラスチック類	現状	20.145					20.145	19.515	0.630		
	計画	20.000					20.000	20.000	0.000		
繊維くず	現状	0.000					0.000	0.000	0.000		
	計画	1.000					1.000	1.000	0.000		
ガラス・陶磁器くず	現状	19.650					19.650	19.650	0.000		
	計画	15.000					15.000	10.000	5.000		
廃石膏ボード	現状	25.140					25.140	24.300	0.840		
	計画	10.000					10.000	10.000	0.000		
混合(管理型)	現状	77.392					77.392	50.958	26.434		
	計画	90.000					90.000	20.000	70.000		
廃電機機械器具	現状	0.000					0.000	0.000	0.000		
	計画	1.000					1.000	0.000	1.000		
石綿含有産業廃棄物	現状	12.780					12.780	3.480	9.300		
	計画	1.000					1.000	1.000	0.000		
金属くず	現状	76.727					76.727	76.727	0.000		
	計画	80.000					80.000	60.000	20.000		
紙くず	現状	3.030					3.030	0.480	2.550		
	計画	30.000					30.000	20.000	10.000		
がれき類	現状	18.352					18.352	18.352	0.000		
	計画	9.000					9.000	5.000	4.000		
混合(安定型)	現状	2.756					2.756	2.756	0.000		
	計画	8.000					8.000	5.000	3.000		
蛍光灯	現状	0.580					0.580	0.000	0.580		
	計画	1.000					1.000	1.000	0.000		
建設汚泥他	現状	19.681					19.681	0.000	19.681		
	計画	0.000					0.000	0.000	0.000		
合計	現状	2,478.633					2,478.633	293.388	2,185.245		
	計画	2,000.000					2,000.000	1,000.000	1,000.000		